

平成30年11月15日

多摩市の社会教育を考える会

代表 荒井 容子 様

多摩市長 阿部裕行



第二次多摩市ストックマネジメント
に関する質問について（回答）

日頃より、多摩市政の運営にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。

お寄せいただいたご意見を拝見させていただきました。

頂いたご質問につきまして以下のとおり、お答えいたします。

質問1について、お答えいたします。

「第二次多摩市ストックマネジメント計画」において建物の改修工事に係るコストシミュレーションをしたところ、平成34年（2022年）度に費用が突出していることから平準化が必要であると判断しました。改修時期が集中しているゆう桜ヶ丘、ふれあい館、TOMハウスの劣化状況を確認・比較したところ、TOMハウスが最も劣化していることが判明したため、2年前倒しを行いました。

質問2について、お答えいたします。

地域複合施設は平成4年から平成17年までの間で外壁改修工事や屋上防水改修工事を実施していることから、安全面に関する工事は実施されていると認識しています。また、内装や建築設備についても施設運営に影響の無いよう、適宜必要な修繕を実施しています。これらを踏まえ、両施設の大規模改修時期は、「第二

次多摩市ストックマネジメント計画」において、豊ヶ丘複合施設は平成 34 年（2022 年）度、東寺方複合施設は平成 35 年（2023 年）度としています。

質問 3 について、お答えいたします。

豊ヶ丘及び東寺方複合施設は、平成 28 年 11 月に更新した「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」において、「市民や利用者等と対話を行いながら、今後の施設のあり方について検討する」こととしています。

両施設とも、仮に大規模改修工事を行うとすると、前段階で基本設計と実施設計を行う必要があり、これらには約 2 年を要することから、豊ヶ丘複合施設は平成 31 年（2019 年）度、東寺方複合施設は平成 32 年（2020 年）度頃までに方針を取りまとめる考えです。

現在、両施設のあり方について、地域の皆さんや利用者の皆さんと話し合いを進めており、具体的事項については対話により合意形成を図ってまいります。

今後ともご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。